



兵協連だより

HYOGO CONSUMERS' CO-OPERATIVE UNION

2025 6

“協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第2回「協同組合とディーセント・ワーク (働きがいのある人間らしい仕事)」



日本労働者協同組合連合会事務局長理事
中野 理氏

5月15日にIYC2025全国実行委員会による連続シンポジウムの第2回が開催され、オンラインで参加しました。協同組合によるディーセント・ワークの取り組みや誰も取り残さない地域づくりへの参画などについて話し合われました。



国際労働機関(ILO)駐日代表
高崎真一氏



生活困窮者自立支援全国ネットワーク
代表理事・認定NPO 法人抱樸理事長
奥田知志氏



© IUN

国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



生活クラブ生活協同組合都市生活
理事長

小谷 里香
(こたに・りか)

私たちが、気づき、考え、つながって、 行動できる生活協同組合

私が生協に加入したのは2003年。子どものためにもできるだけ安心安全な食材を手入れしたい、地産地消を掲げた食材も多くあったので、地元のを応援したいという思いで加入しました。それまで生協とは何ぞやと考えたこともありませんでしたが、共同購入をし、活動に参加する中でわかることがたくさんありました。何気なく暮らしているだけでは特に意識もなかったようなことへの気づきも何度もありました。食料自給率の低さ、家畜のエサ、農薬や添加物等の食における問題、ごみ問題、化学物質が身体や環境に及ぼす問題等を知ること、暮らしにも変化がありました。

例えば、生活クラブ生協では醤油や酢、ケチャップ等はリユースびんで供給されています。リユースびんだと、原料や作り方等にこだわった食材の味を損ねないだけでなく、ごみの排出量を減らし、容器をリサイクルするより環境負荷が軽減できるのだそうです。以前は、紙パックやペットボトルに入っただけのものを当り前に購入していましたが、リユースびん入りの食材を選んで使うようになり、実際にごみの量も減りました。

私は、生活協同組合は、安心安全な食材を提供してくれるだけのものではなく、暮らしの中にある食や環境、地域の課題に気づき、いろいろな人とながつて、対話し考え、自分にできることを後押ししてくれる場、お助けの思いや願いを形にしていこうことのできる場だと実感していますし、協同組合への共感や参加が増えることを願っています。しかし、以前の私もそうでしたが、日本では、協同組合についての認識があまり浸透していないのが現実のようです。

国連は2025年を、「持続可能な生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域の人々への医療・福祉、働きがいのある人間らしい仕事の創出、すべての人が参加できる社会づくりなど、さまざまな分野で持続可能な開発目標（SDGs）に貢献している協同組合を評価し、その認知の向上と協同組合の振興のために」、国際協同組合年と決めました。これを機に、生活クラブでも、以前にも増して、ひとりでも多くの人が参加し、協同組合の価値が実感できるような場づくりをし、サステイナブルな暮らしや地域づくりを進めていきたいと思っています。

CONTENTS

2. 想点

3. 能登半島地震被災地の仮設住宅を訪問しました／
2025年度 第1回 兵庫 JCC 幹事会

4. 協同組合のかけ橋

5. 兵庫県のページ／ヨッシーの窓

6. 第103回国際協同組合デー・兵庫県記念大会のご案内／
県連行事予定／編集後記

能登半島地震被災地の 仮設住宅を訪問しました

5月3～5日に、能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県輪島市の仮設住宅等を訪問し、タコ焼きをふるまうサロン活動に参加しました。近畿地区の生協府県連協議会が呼びかけ、兵庫県生協連からの2名含め、17名が参加しました。

能登半島の北端部へのアクセスは1年前と変わらず、県道は仮補修のまま凹凸が激しく、さらに輪島市の山村集落の周辺は昨年9月の豪雨災害による大規模な山崩れなどが残っていました。農作地ではため池や河川が崩れて水を引けないため、今年も稲作ができない状況が多くみられました。市街地では住宅が取り壊されて更地になっているところと、未だ震災時のまま倒壊状態にあるところが混在しており、また、被害が大きい地域の住民は仮設住宅に引っ越しており、日常的な買い物の不自由さや生活復興に時間を要している様子が感じられました。協同組合同士のつながりを発揮して、今後も被災地復興に向けた活動を考えていきたいと思います。



2025年度 第1回 兵庫 JCC 幹事会

5月22日に2025年度第1回兵庫 JCC 幹事会が神戸商工貿易センタービルで開かれました。生協、JA、JF、森林組合からなる JCC の幹事が今年度の取り組みなどについて話し合います。会議では7月4日に迫った第103回国際協同組合デーの内容や、第10期を迎える虹の仲間づくりカレッジについてなど、国際協同年として協同組合間の連携を強め、多様な取り組みをするため協議をしました。



JF

JF 明石浦

JF 明石浦がセリの魅力を 世界に発信

～CJPF アワードムービー部門で準グランプリ～

JF 明石浦が作成したセリ動画の英語字幕版「The Seri」が内閣府のクールジャパン官民連携プラットフォーム（CJPF）が主催するCJPF アワード2025ムービー部門で準グランプリに輝きました。

JF 明石浦では、近年視察や見学が増えてきていることから、セリの魅力や思いを伝えようと24年2月に動画を作成公開。外国人の訪問も多いことから、翌月に英語字幕版も作成しました。

「アナログだけど最先端」をキーワードに、漁師、漁協職員、仲卸らそれぞれの技術力、丁寧さ、心意気などを動画に凝縮し、活け締めを含め鮮度を保つ高度な技を発信しています。

戎本組合長は「知人の勧めで応募したら思わぬ賞をいただいた。漁業や海へ関心を持ってもらうきっかけになってくれたら嬉しい。」と受賞についてコメントされました。



セリ動画「The Seri」



「The Seri」のQRコード

JA

JA 兵庫六甲 こうべ旬菜部会

先進的な取り組みで人と環境に 配慮した農業を実現する

本企画は、兵庫県を拠点に活動する生産組織にスポットを当て、設立に至った経緯や注力している取り組み、メンバーの意気込み等を紹介します！

Q1. 部会の成り立ちを教えてください！

当部会は、栽培品目別の13部会をまとめる形で平成12年に設立されました。人口100万人越えの政令指定都市の中では、全国で最も大きな農業産出額を誇ります。

Q2. 部会員数や方針について教えてください

部会には、269名が所属しており、若手生産者が多いことが特徴です。人と環境に配慮した農業を実現するため、化学肥料や化学合成農薬の使用を低減し、出荷先を神戸市内に限定することによって、輸送で発生するCO₂の排出量削減に取り組んでいます。

Q3. 「こうべ旬菜」ブランドについて教えてください！

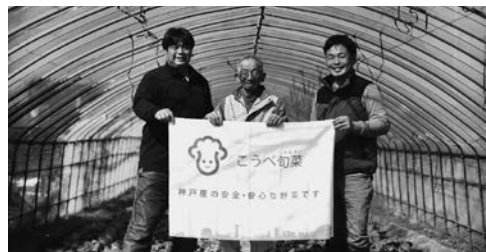
化学肥料・農薬の使用量を減らした栽培方法を積極的に取り入れ、地域の環境に配慮した農業に取り組んでいます。こうべ旬菜の野菜を取扱う市内の量販店数は15軒に上り、市民にとって身近なブランドになってきています。

Q4. 取り組みについて教えてください！

出荷には使い捨ての段ボールではなく、壊れるまで繰り返し使用可能なプラスチック製の「通いコンテナ」を使用しています。また、下水処理場に溜まった汚泥から農産物の生産に欠かせない原料であるリンを取り出し、肥料として再利用された「こうべハーベスト肥料」の研究開発や実証実験に全面協力しています。

Q5. 第53回日本農業賞「特別賞」を受賞した感想と今後の目標について教えてください！

名誉ある賞をいただき、部会員一同大変嬉しく思っています。私たちの取り組みや「こうべ旬菜」の名を広く知ってもらうことができました。今後も、先進的な取り組みを継続し、人と環境に配慮した農業を追い求めていきたいと思っています。





～体験してみませんか？～ 「消費者力アップ体験学習会」

消費生活総合センターでは、消費者力アップのための体験学習会を皆様の要望に応じて、随時開催しています。身近な商品を自分でテストして確かめたり、最新の悪質商法の手口を体験してみたり、楽しく学んで消費者力をアップしましょう。

豊富なメニューから選んで、好きな日に、子どもから大人まで誰でも参加できる人気の講座を当センターで体験してみませんか。

【実施期間】 令和7年5月～令和8年3月

【場 所】 県立消費生活総合センター消費生活情報プラザ（ポートライナー「中公園駅」下車 徒歩1分）

【対 象】 兵庫県内在住・在勤・在学の方（原則、4名以上20名程度のグループ）

【参 加 費】 無 料

【体験学習会のメニュー例】

商品テストコース

- ・家庭に身近な化学物質
- ・紫外線の測定
- ・発電の仕組み
- ・オリジナル消しゴムをつくろう など



消費生活コース

- ・契約の落とし穴
- ・SDGsな暮らし方
- ・食品ロス
- ・賢く使おう、ネットとスマホ など



【申し込み方法】

開催日の1か月前までに申込書によりお申し込みください。（内容・日程等は、協議のうえ決定させていただきます。）

（メニュー、申込書）<https://www.seiken.server-shared.com/seminar/research>

【申し込み・問い合わせ先】

兵庫県立消費生活総合センター 学習交流推進課
（消費者力アップ体験学習会担当）

〒650-0046 神戸市中央区港島中町4丁目2

電 話：078-302-4001

F A X：078-954-5640

E-mail：shohi_sogo@pref.hyogo.lg.jp



メニュー、申込書

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット



みなさま、こんにちは。適格消費者団体NPO法人ひょうご消費者ネットの吉江直記です。

あっという間に蒸し暑くなり、身体が重くだるく感じる季節になってしまいました。人は生まれた月が、一番、調子がよいという話を聞いたことがあります。私は6月生まれなのですが、このお話通りでしたら、6月は絶好調なのですが、生憎、蒸し暑さは苦手です。

さて、前回、大学生の起業についてお話していました。大学生の起業には、ひとつ傾向がありまして、「学生」と「企業」をつなぐサービスというものなのです。具体的に、どんな事業かというと、企業の説明会的なイベントなどを企画して、そこに現役大学生を呼び込むのです。そのイベントの企画費用として、企業側からお金を受け取るのです。イベントを企画する学生の側で注意しておかないといけないのは、これは「契約」だという点です。どのような条件で、イベントを開催するのか、現役大学生を何人集めるのかなど、きちんと確認すべき点がたくさんあるのです。その他にも現役大学生を集める際の勧誘方法も注意が必要です。また、このような事業は時限的です。学生という身分を失えば、現役大学生との接点も少なくなり、事業の継続が難しくなってしまいます。

今、大学生でも起業に興味関心のある人が増えています。大学生だからといって、法律上、保護されるようなことはありません。なので、もし身近に起業を考える大学生がおられましたら、ちょっと、気にしていただけたらと思うのです。

ひょうご消費者ネット
連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C

TEL：078-361-7201 E-mail：office@hyogo-c-net.com



MOVE

第103回国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会のご案内



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

国際協同組合デーは、毎年7月の第1土曜日に世界の協同組合の仲間が心をつなげて、協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために協同組合運動の前進を誓い合う日です。

この日に先駆けて兵庫県記念大会を行います。記念講演では湯浅 誠氏をお迎えし、「ごきげん (well-being) な地域づくりと居場所～こども食堂と私たちの地域・社会～健康的な食生活～」をテーマにお話いただきます。ご参加をお待ちいたしております。

◆と き：2025年7月4日(金) 午後1時30分～4時

◆ところ：神戸市東灘区民文化センター5階「うはらホール」
兵庫県神戸市東灘区住吉東町5丁目1-16

◆プログラム：Ⅰ部 記念式典

Ⅱ部 記念講演

「ごきげん (well-being) な地域づくりと居場所
～こども食堂と私たちの地域・社会～」

講師 湯浅 誠氏

◆定 員：300人 (定員になり次第締め切りとさせていただきます)

◆入場料：無料

◆主 催：兵庫県協同組合連絡協議会 (兵庫 JCC)

兵庫県生活協同組合連合会

兵庫県農業協同組合中央会

兵庫県漁業協同組合連合会

ひょうご森林林業協同組合連合会

◆2025国際協同組合年全国実行委員会認定事業

◆お申込み・お問い合わせ：兵庫県生活協同組合連合会
電話：078-894-3207

悪天候等、諸般の事情により中止する場合は、当日朝9時に
兵庫県生活協同組合連合会ホームページに掲載いたします。

兵庫県生活協同組合連合会

検索



湯浅 誠氏 プロフィール

■社会活動家
■東京大学先端科学技術研究センター特任教授
■経済同友会会員
■認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長
1969年東京都生まれ。東京大学法学部卒。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。1990年代よりホームレス支援に従事し、2009年から足掛け3年間に閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。
こども家庭庁「こども家庭審議会こどもの居場所部会」委員。
「2025 国際協同組合年 (ICY2025) 全国実行委員会」委員。
■著書
「つながり続ける こども食堂」(中央公論社、2021年)、「子どもが増えた! 人口増・税収増の自治体経営」(泉房穂氏との共著、光文社新書、2019年)、「『なんとかする』子どもの貧困」(角川新書、2017年)、「『ヒーローを待っていても世界は変わらない』(朝日新聞出版、2012年)、「反貧困」(岩波新書、2008年、第8回大佛次郎論壇賞、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞) など多数。

編集後記

協同組合のシンボルとして「虹」をよく目にします。由来は、旧約聖書の「ノアの箱舟」のお話で、大洪水のあと、人々が平和を求め、互いに助け合ったのを、神が祝福して虹を現した、という一節だそうです。虹の七色は、平和と協同の象徴として1924年にICA(国際協同組合同盟)のシンボルとして採択されました。

この仕事に就き、いろいろな生協や協同組合の方とお話をしていると、成り立ちや立場、課題や仕事内容などとても多様で、理解が追いつかないこともあります。

けれども虹のように個性豊かな色がそれぞれ存在し、まとまれば大きく美しい調和をみせる、というのがまさに協同組合のシンボルである所以かもしれない、と感じます。

(権藤)

県連行事予定

6月2日 第7回理事会
6月20日 JCC事務局会議
6月23日 第75回通常総会
6月25日 ひょうごまるごと健康チャレンジ2025
実行委員会

